

## 2018年 年頭のごあいさつ



### 「新年を迎えて」

さぬき市民病院事業管理者・病院長 徳田 道昭



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

早いもので、平成 24 年（2012 年）1 月に当院新病院が竣工してから、今年 1 月で 6 年が経とうとしています。その間の当院を取り巻く医療環境の変化と、今後の展望について触れさせていただきます。

外来受診者数はほぼ横ばい（月平均 10,556 人、以下、平成 28 年度実績）であるものの、初診患者数は減少（月平均 1,375 人、-27.5%）しており、初診となるべき小児の自然減に加えて、成人についても当院への受療経験率が高いことが推測されます。

医療圏人口が自然に減少する状況で、当院の初診患者数を維持するには、圏域外への受療を防ぐと同時に、圏域外からの受療を増やすことが必要ですが、近隣に香川大学医学部附属病院、屋島総合病院、済生会病院などの有力病院が比較的近距離にある関係上、一朝一夕には克服しにくい目標であることを感じます。

一方、当院の外来診療単価（月平均 11,735 円）は、2012 年度に比して 18.9% 上昇しており、内訳としては、画像や検査以外にも、在宅指導料（インシュリン、自己免疫疾患）や注射料（悪性腫瘍、自己免疫疾患）がその成因であることから、外来での診療内容の質が高度になっていることが示唆されます。

これらを当院の特徴として、他圏域からの紹介患者数を増やすことは可能と感じると同時に、他にも、地域の事情を鑑みた回復期や慢性期の医療を提供することで、上記病院との役割の差別化も可能と考えます。

その意味では、保健・医療・福祉の拠点として、当院が周辺の医療機関や福祉機関との連携の中で‘面’を形成すべきことは、以前からも触れてきました。昨年までの当院の具体的なアクションとしては、地域包括ケア病棟の設置（2016 年）、地域包括ケア推進室の設置（2017 年）などが挙げられますが、特に‘病後の保健・医療・福祉連携’を重視する当院としては、院内外チームワークの輪を広げながら、各職種が顔の見える連携を深めることで地域に貢献できればと思っています。

一方、災害拠点病院としての活動では、DMAT 隊員への職員の登録数も増えると同時に、彼らを中心とした大規模災害訓練も着々と準備・施行されており、今後とも、職員全体の危機意識をさらに醸成する活動を積み上げていく予定です。

以上、新年を迎えて、現状の報告と、今後の方向性についての所感を述べてみました。当院が地域における二次医療機能を果たすには、今後とも、周辺医療機関、福祉機関各位のご理解とご協力が不可欠であることは論を俟たず、改めて宜しくご高配とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



草々

## ■ 第117回 日本内科学会 四国地方会を主催して [12月3日]

12月3日に、かがわ国際会議場とサンポートホールを会場として、日本内科学会四国地方会が開催され、不肖私が会長の榮に浴させて頂きました。

この会は毎年6月と12月の2回にわたって開催され、今回で第117回の開催となります。毎回、約100題程度の演題が寄せられ、分野毎に5つの会場に分かれて朝から昼までの約3時間にわたって演題を中心にした討論が展開されます。また、午後からは、午前中の優秀演題の表彰に引き続いて「生涯教育講演会」が開催され、午前中とは異なり、既に認定医や専門医の資格を取得した中堅医師が熱心に聴講します。

その中で、今年の特徴としては、天候にも恵まれて午前と午後の参加者合計が770名を超えて過去最高になったことであり、応募演題数も125題と最近数年間ではトップレベルの多さだったことが挙げられます。結果的に各会場は立ち見も出る大盛況の有様でしたが、それでも大過なく学会が運営され、私が会長の役割を無事果たせたのは、日曜日の早朝から参集してくれたスタッフのお蔭であることは間違いなく、この紙面をお借りして当院をはじめ各方面のスタッフに改めて深謝します。



■ 研修医奨励賞授賞式



■ 地方講演会発表 (南木医師)



さて、この会を主催することが決まったのは2年前の評議委員会であり、それから半年毎に開催される地方会に出かけて、スタッフの配置から案内看板の位置まで精力的に取材してきました。開催まで半年となった昨年6月からは、毎週のように準備調整会を開いて、業者や学会関係者との連絡調整や手順の確認を行いました。いよいよ開催までの1ヶ月となった11月には、学会パンフレットの誤植の確認から当日の弁当の手配に至るまでまさに「火の車」状態であり、これを通常秘書業務と同時にこなしてくれた当院医局秘書の女性達の活躍には今もって頭が上がりません。

余談になりますが、当日きびきびと参加者を誘導したり、予想外の質問に困惑したり、それでも一生懸命に役割を果たそうとするスタッフの表情には、優しさと同時に凛々しさも感じられて、10数年前に私が病院長として着任した頃に比べて一段と成長した姿を見たようでちょっと嬉しく思いました。

今回の経験が当院スタッフの結束をさらに高める機会になると同時に、「さぬき市民病院」の名前が800名近い医師に印象づけられたことで、将来の医師派遣や医師募集の際にきっと良い効果を生むものと信じて止みません。

(文責：さぬき市民病院長 徳田 道昭)





## ■第56回 全国自治体病院学会 参加

10月19日(木)から20日(金)にかけて、「医療がつくる地方創生～2025年、その先へ～」というテーマのもと、千葉県の幕張メッセで「第56回全国自治体病院学会」が開催されました。

当院からは、医療技術部ME科 臨床工学技士 東村厚彦さんが「炭酸泉浴に対するPIによる評価」、看護部 4階西病棟 看護師 宮本亜起子さんが「ベストプラクティスを活用したおむつ交換の取り組みとその評価」、医療技術部栄養管理科 管理栄養士 木下亜紀子さんが「外来糖尿病患者における食事記録の分析と活用」という演題で発表しました。様々な職種の方が参加している学会であるため、日頃の取組を知ってもらう良い機会にもなりました。当院の代表として参加された皆さん、おつかれさまでした。



### ■学会に参加した宮本さんから一言

今回リンクナースとして取り組んだ研究を全国自治体病院学会で発表させて頂きました。おむつ交換時の手指衛生のタイミングが遵守できていないという課題に対して、根拠に基づき、可視化した作業手順書を作成し取り組みました。自施設で実現可能な内容を自分達で作成したのでとても勉強になり、発表させて頂いたことで良い経験になりました。

## ■平成29年度 香川大学医学部附属病院防災訓練 参加 [10月17日]

私の記憶が正しければ、昨夏に気象庁が発表した今冬の気候予測では、寒さは平年並みであったと思います。しかし実際にはラニーニャ現象が発生し、今冬の寒さは例年より厳しくなると……。予期せぬ事態は想像できませんが、予測なしの行き当たりばったりの姿勢では、混乱と困難が生じることは容易に想像できるものです。では今できること、それは、不測の事態に備えておくことです。

当院の院内DMATプロジェクトチームは、大規模災害を想定して、様々な活動を行っています。その一環として、この度、香川大学医学部附属病院の防災実動訓練に、応援要請を受けた当院DMAT隊が出動するという形で参加してきました。本訓練では、被災患者(約50名)



■職員に対する指導の様子

を受け入れるため、トリアージから赤黄緑黒の各エリアを作成していました。私達(6名が参加)は各エリアに分かれて、各々を手伝っていくという大学の想定でしたが、各エリアで参加している大学医師達は災害訓練の未経験者ばかりでした。そのため、実際には我々がその大学医師達を指導して現場を仕切っていくことになり、結果的には、大学の訓練でありながら、我々DMATにとっても有意義な訓練となりました。



■トリアージの様子



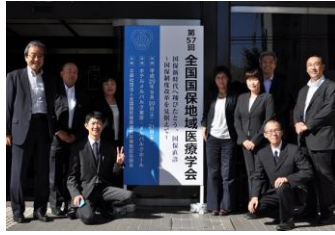
■当院の災害派遣医療チーム【DMAT】

厚生労働省の指針で、近隣病院と連携した災害訓練の義務化がされたので、今後当院でも他の医療機関(大川地区医師会など)の医師も参加した実動訓練なども想定しています。全職員の方のご協力の程よろしくお願い致します。

(文責：竹林 隆介)

■第57回 全国国保地域医療学会 [9月20日]

9月20日(水)から21日(木)にかけて、東京都内のホテルメルパルク東京及びメルパルクホールにて「第57回全国国保地域医療学会」が開催されました。「国保新時代の地域包括ケアを目指して」をテーマとしたシンポジウムでは、全国から4名がシンポジストとして発表をする中、当院からは、リハビリテーション技術科の名出科長が「地域包括ケア：地域リハビリテーションができること」について発表しました。また、一般演題では、リハビリテーション技術科と看護部から、それぞれ1件の研究発表を行いました。当院の代表として参加された皆さん、おつかれさまでした。

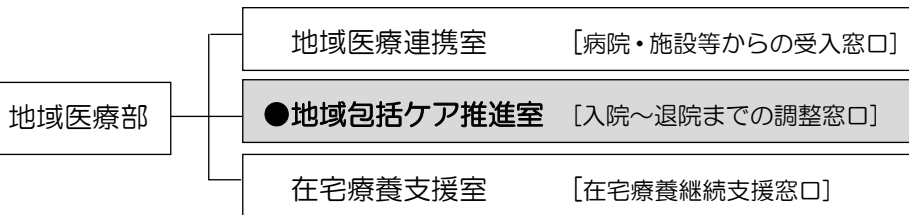


■パンジーで彩られています\*

11月24日(金)に、ボランティア団体クローバーの会員さん、石田小学校・石田高校の生徒さん合計52名の皆さんが、当院の正面駐車場歩道脇に色とりどりのパンジーを植えてくださいました。当日は寒い中、本当にありがとうございました。



地域医療部からのお知らせ



●地域包括ケア推進室紹介

地域包括ケア推進室では、患者さんやそのご家族の方が安心してその人らしい生活を送るために、入院前から退院後までを、継続してサポートしています。

入院前に患者さんやご家族の方と面談や聞き取りを行い、入院後も療養にかかる様々な相談を受けたり、関係機関との連絡調整を行い、退院後の生活を見据えた支援に取り組んでいます。

また、退院後も状況に応じて在宅訪問を行っています。お気軽にご相談ください。



【お問合せ先】

電話番号：0879-43-2521 (代表)

FAX 番号：0879-43-1530

■地域医療連携室からのお願い

患者さんが紹介状を持参し、直接外来予約を取りに窓口に来られる事があります。

地域医療連携室を通して、FAXによる事前予約をお取りくださいますようお願いいたします。



■市民公開講座を開催します  
お気軽にお越しください

日 時：平成30年3月10日 (土)

開催時間：9:30~11:00 (受付：9:00~)

場 所：さぬき市民病院 2階会議室

テ ー マ：糖尿病について

講 師 ①：副院長 兼 糖尿病ケア長 井上 利彦

講 師 ②：糖尿病療養指導士 スタッフ

参加費：無料

